

はじめに

岩手県環境保健研究センターは、平成13年に衛生研究所と公害センターを再編統合し、平成17年に県内保健所の検査部門を統合して現在に至っています。

開所以来、健康や環境に関する科学的・技術的拠点として、県民の皆様の健康といわての環境を守るため、保健所や関係機関と連携しながら、試験検査、監視測定等の業務や研究に取り組んでおります。

本県では、令和元年度に「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標に掲げた「いわて県民計画（2019～2028）」をスタートさせました。本計画では、各政策分野に「いわて幸福関連指標」を定め、県民一人ひとりの幸福を守り育てる取組を進めているところであり、当センターとしても健康づくりの推進や食の安全・安心の確保、感染症対策の推進、自然環境の保全に関連した調査・研究に取り組んでいます。また、県政の最重要課題である東日本大震災津波からの復興の取組として、引き続き被災地における空間線量率や食品中の放射能物質の測定を行っています。

令和元年度終盤から新型コロナウイルス感染症が世界的に流行しておりますが、当センターは行政検査機関として、PCR検査やゲノム解析を通じ、感染症対策の推進等に寄与しています。

今回の年報では、『健康や環境の危機管理対応』、『県民の健康と環境を守るための試験検査や監視測定』、『行政課題に対応した調査研究』、『県民、市町村、関係機関等に対する技術支援や情報発信、研修指導』などの業務状況について掲載しています。併せて研究報告として、食の安全確保に向けた『食中毒原因となる自然毒の特定方法等に関する研究』、水環境の保全のための『医薬品・生活関連物質の環境実態及び環境リスク解明に関する研究』、世界的な課題となっている海洋プラスチック対策に関する『海洋プラスチックごみの調査法に係る基礎検討』、自然環境の保全のための『重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究』、『個体特性および個体群構造に基づいたイヌワシの保全に関する研究』、『ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明』について取りまとめた調査研究成果を掲載しています。

皆様方には、本年報を通じて、当センターの業務や研究の状況を御理解いただき、お気づきの点について御意見や御要望をお寄せください。

引き続き当センターの使命を果たすべく試験検査、研究等を実施してまいりますので、一層の御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年（2023年）3月

岩手県環境保健研究センター

所長 田村 輝彦